

第2章 水利用および水資源開発 施設の状況に関する事項

第1節 淀川水系の水利用の概要

- 1 水利用の現状
- 2 農業用水
- 3 水道用水
- 4 工業用水
- 5 水循環
- 6 淀川の特性

1. 水利用の現状

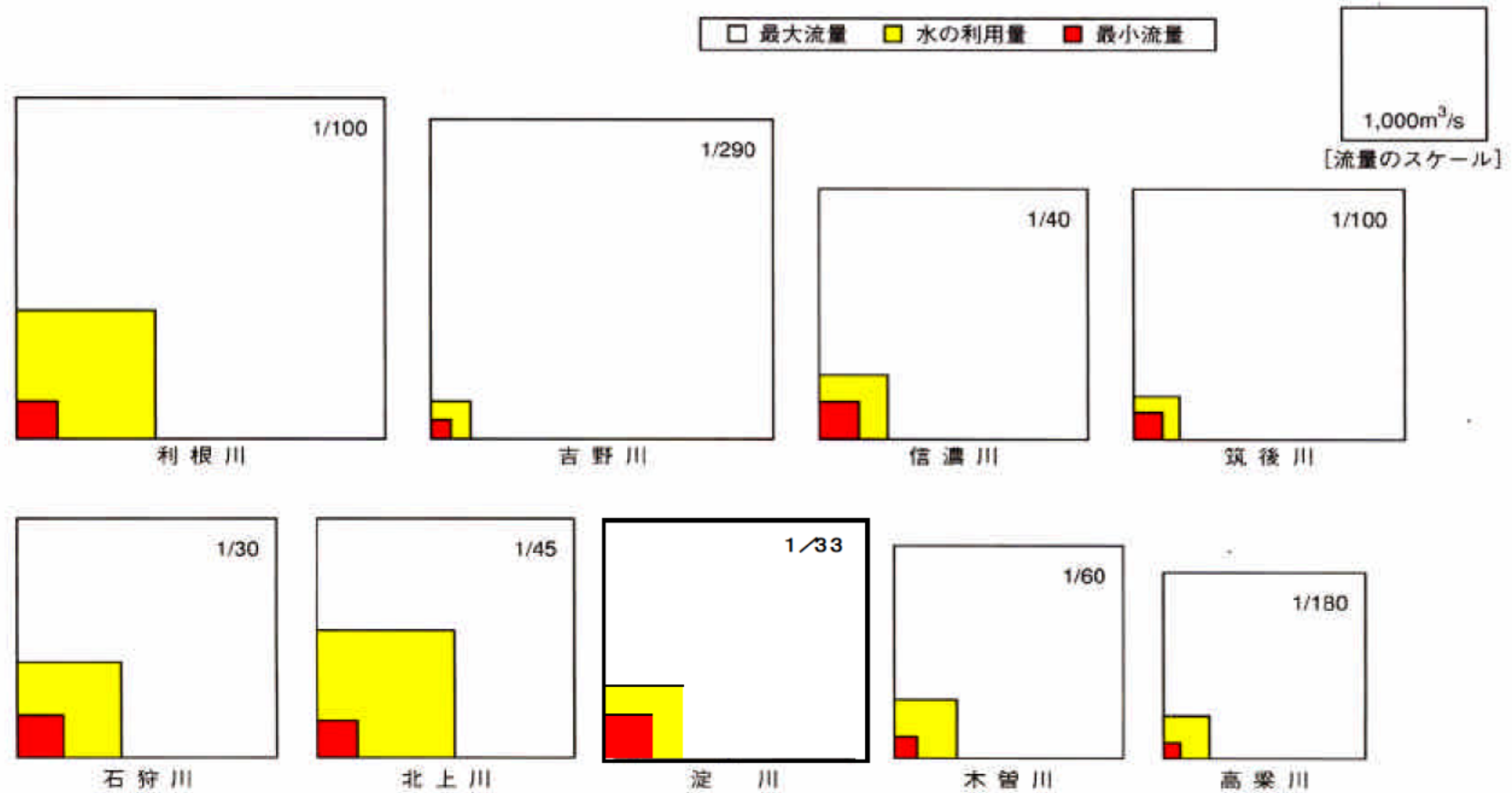
淀川流域では、各支川において高度な水利用がなされています。

特に、**三川合流点下流**においては、**都市用水**を中心とした高度な水利用がなされています。

その他の支川においては、**農業用水**を主体とした水利用がなされています。

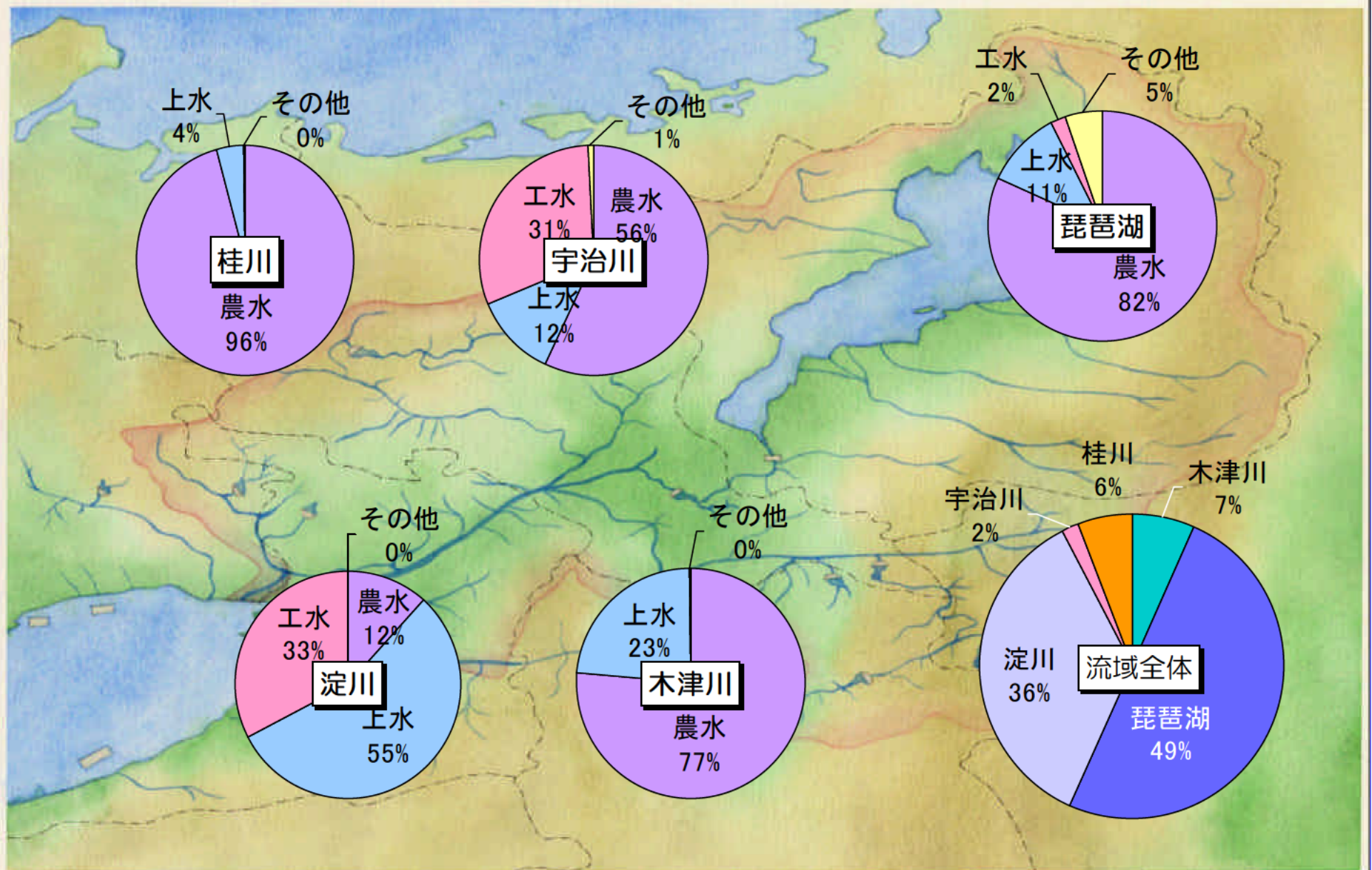
1. 水利用の現状

最大流量・最小流量および水の利用



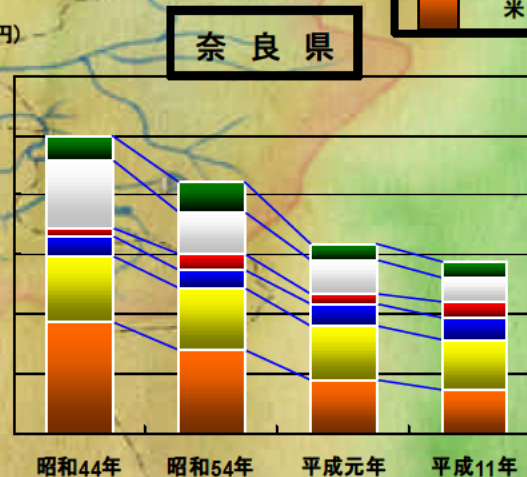
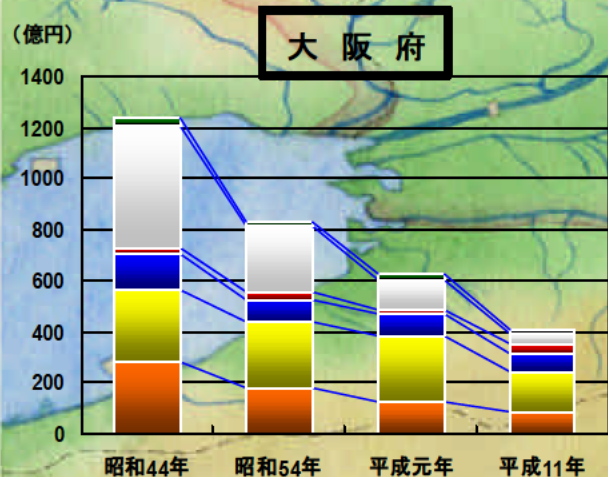
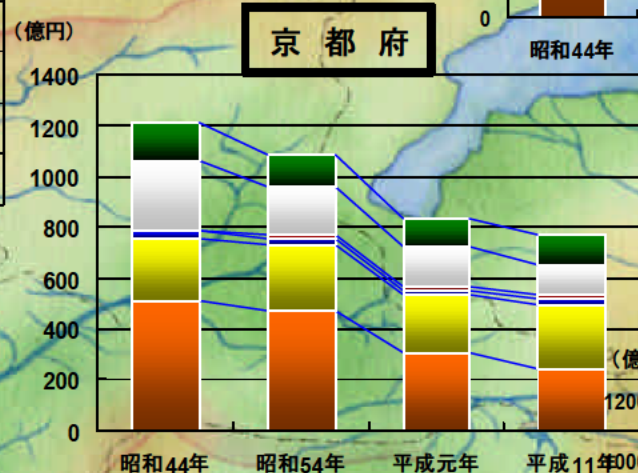
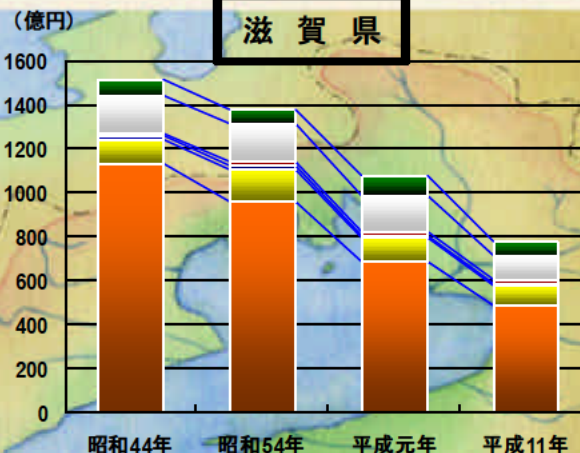
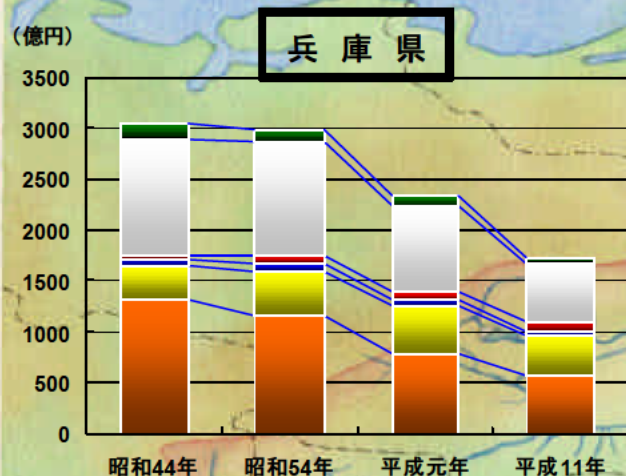
※枠内の数字は、最大流量と最小流量の比率（最小流量/最大流量）。
※水の利用は、暫定水利権も含めた全水利権量。
但し、淀川については、琵琶湖周辺域の水利権分は除く。
※資料：流量年表（S5 9～H5）及び水利権台帳（H5末）より作成。

1. 水利用の現状



2. 農業用水

各府県の農業粗生産額

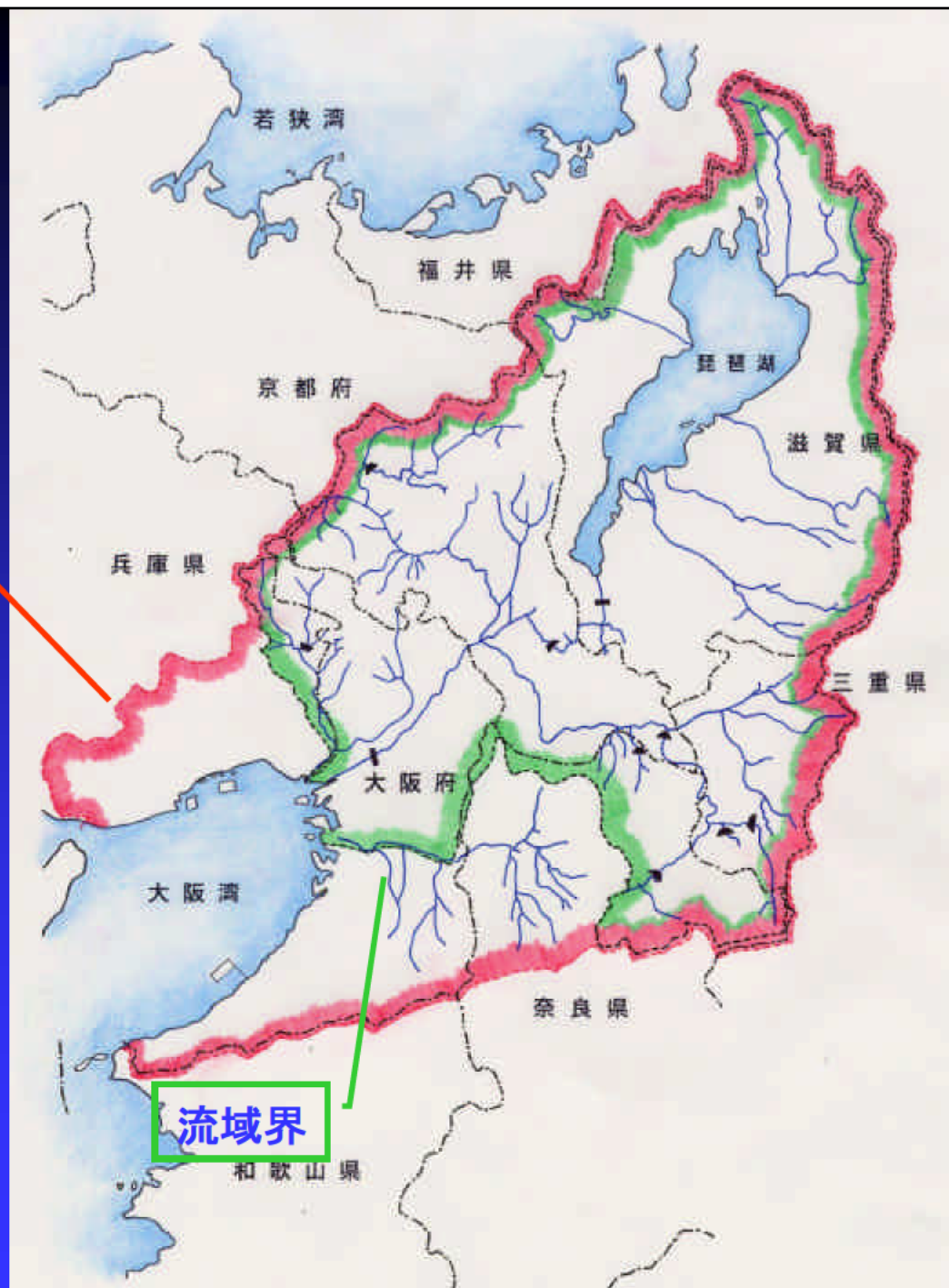


※ 各年の生産額は、農林水産省の生産農業所得統計を引用し、総合物価指数を指標に平成11年価格に換算して示しました。

3. 水道用水

3.1 水道用水供給区域

水供給区域



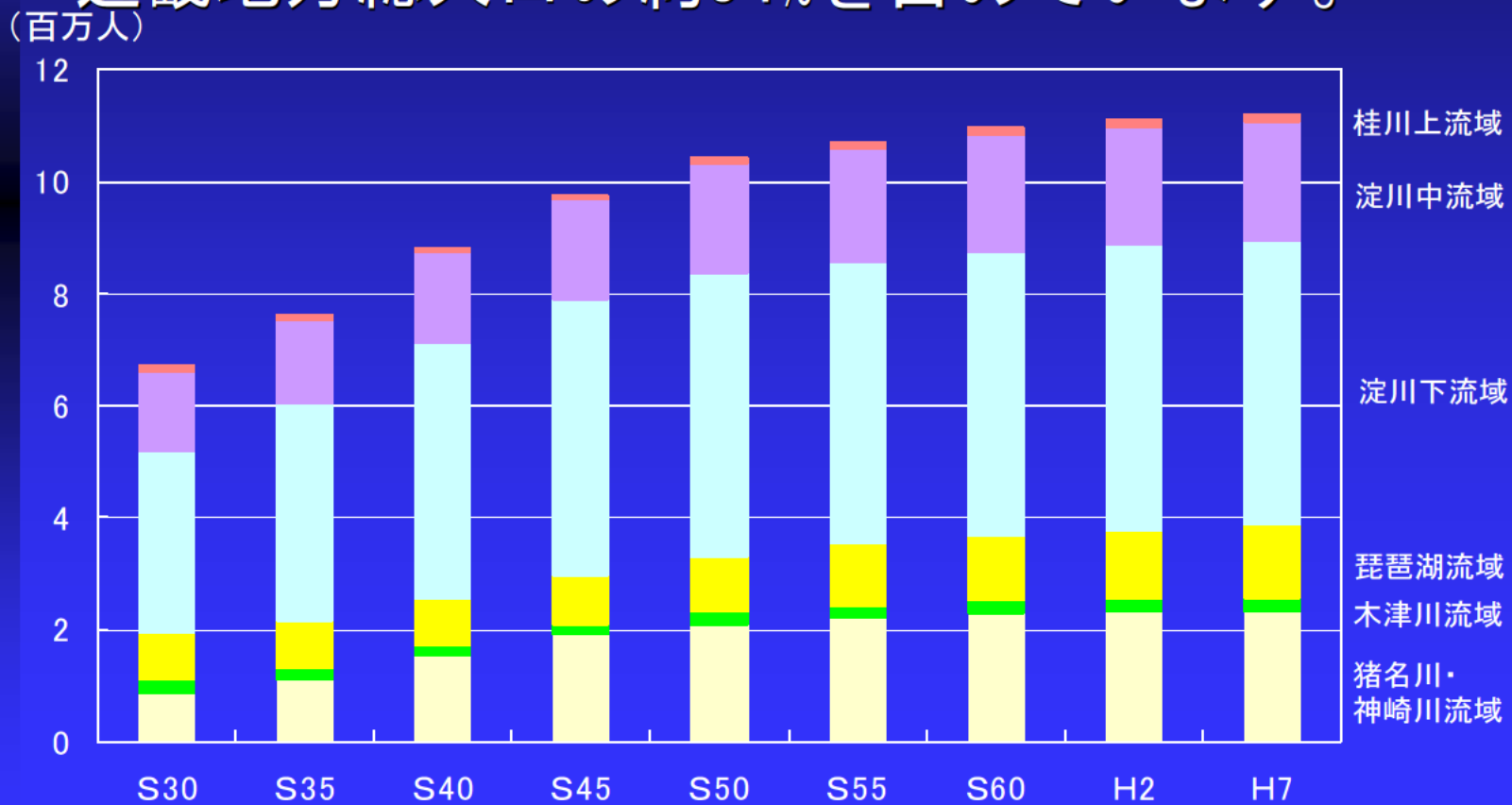
流域界

3. 水道用水

3.2 水道用水供給人口の推移

流域の人口

淀川水系の人口は、国内総人口の約9%、
近畿地方総人口の約54%を占めています。



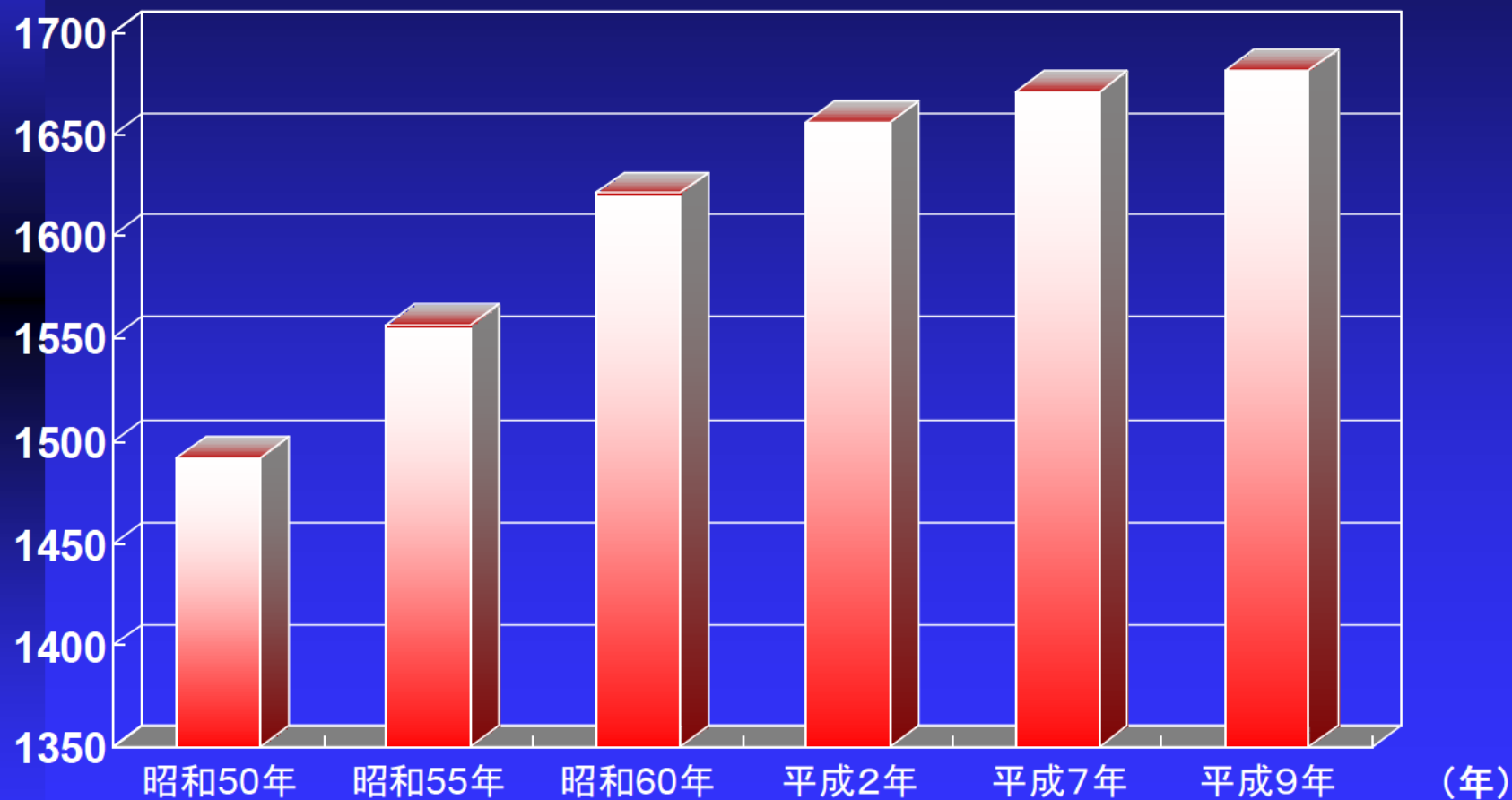
出典：国勢調査

3. 水道用水

3.2 水道用水供給人口の推移

給水人口(淀川の水を利用している地域)

(万人)



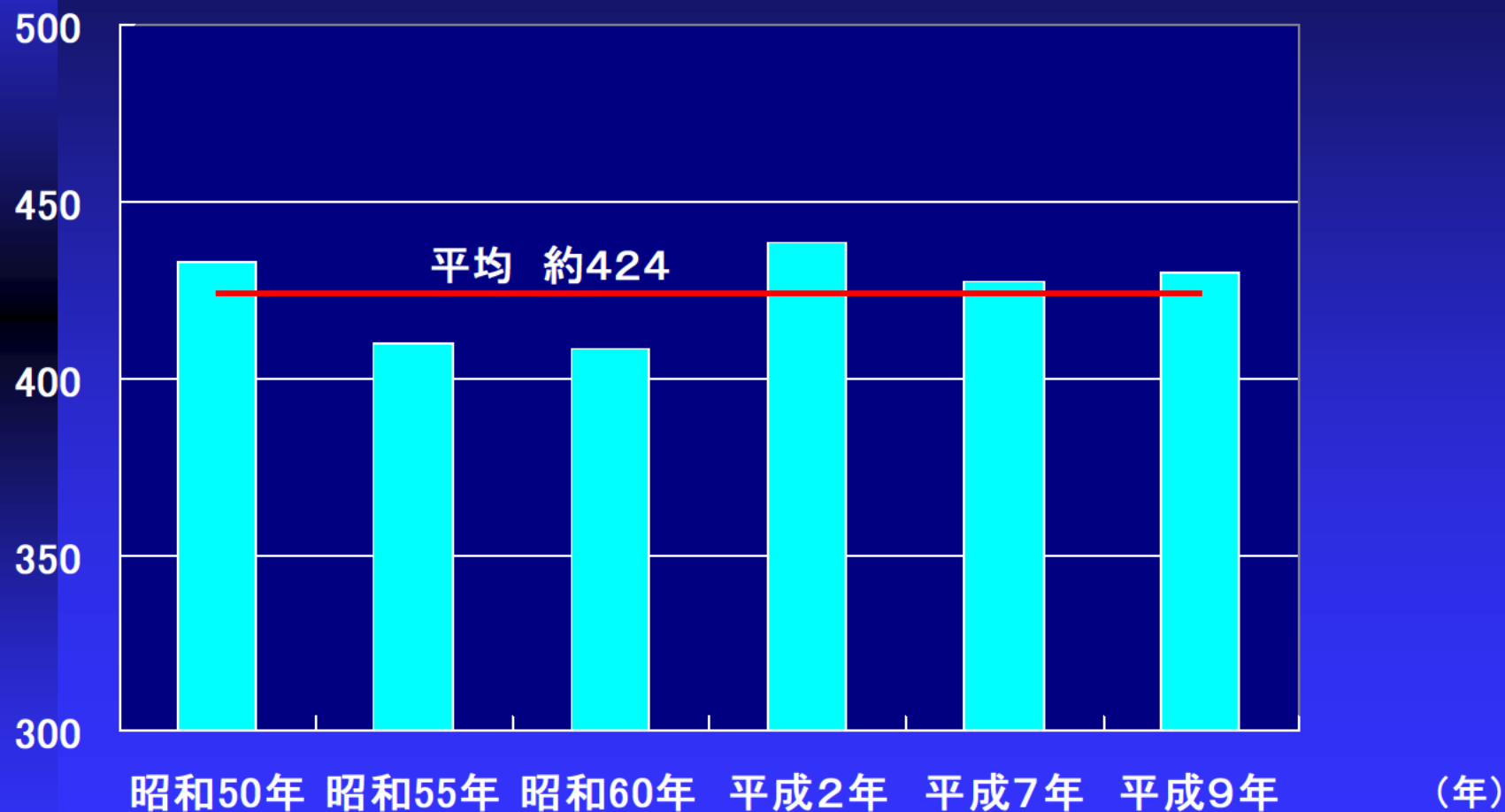
(出典:水道統計)

3. 水道用水

3.3 1人1日当たり給水量の推移

大阪府の1人1日当たり給水量

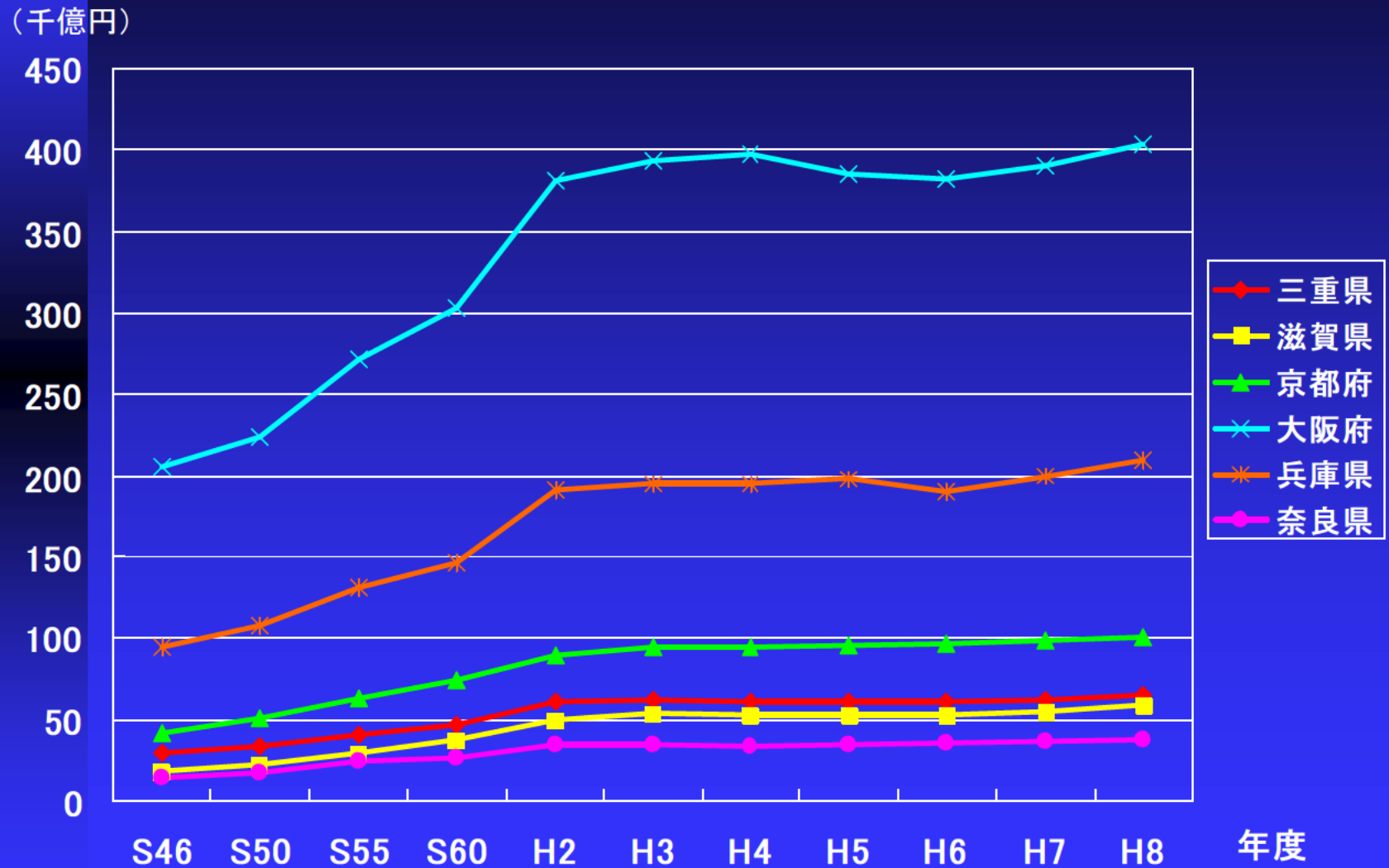
(ℓ/人/日)



(出典:水道統計)

4. 工業用水

府県別総生産額の推移



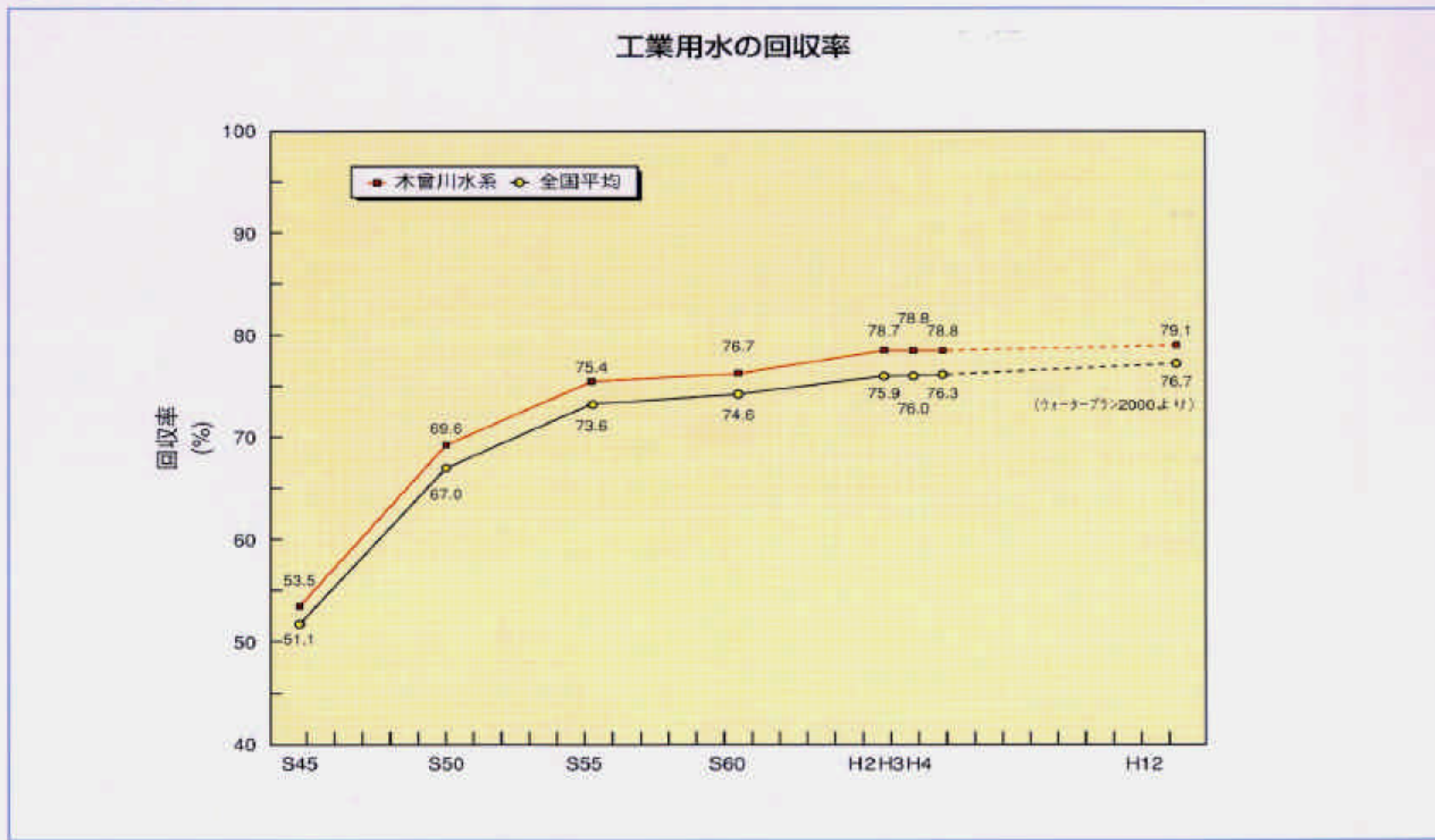
出典:BYQ水環境レポート

※ 各年の生産額については、総合物価指数を指標に平成8年価格に換算して示しました。

4. 工業用水

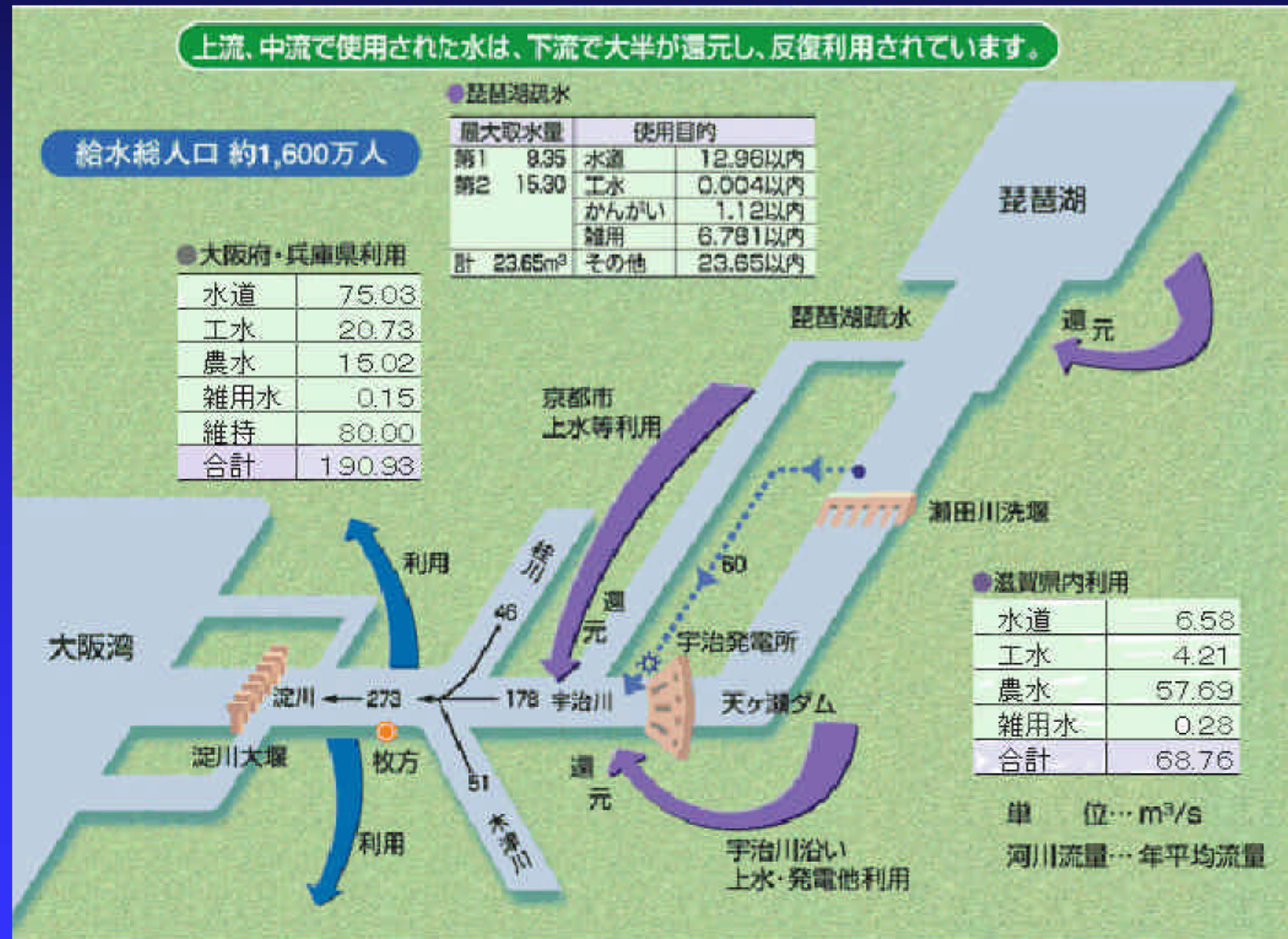
工業用水の回収率

工業用水は、水のリサイクルを行い回収率を向上させてきたが、限界に近づきつつある。



5. 水循環

5.2 用途別取・排水量



5. 水循環

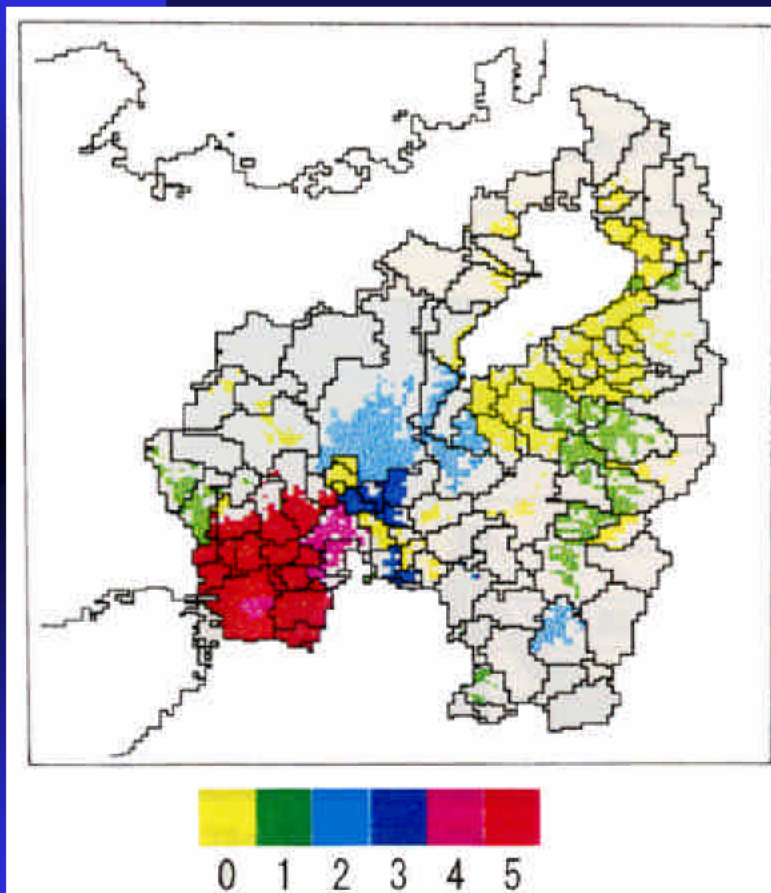
5.3 水循環機構



海に到るまでに、川の水は何度も再利用されています。

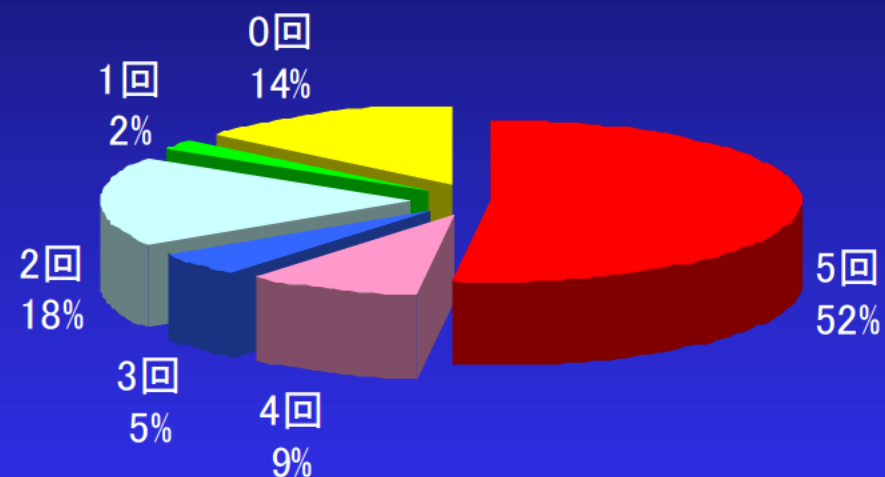
5. 水循環

5.3 水循環機構



《河川水の再利用回数分布》

《河川水の再利用回数の人口割合》



出典：環境衛生工学研究 Vol. 12, No. 3, 1998

淀川では、約半数の人が5回目の再利用水を飲んでいきます。

6. 淀川の特徴

淀川流域は湖面積約665km²、流域面積3,848km²の琵琶湖という自然の湖を水資源開発施設として有効に利用することによって、下流の流況調整に大きく寄与し、安定的な水利用が可能となっています。

枚方流量に占める琵琶湖放流量の割合をみると(平成元年～10年)、**年平均で約70%**を占め、河川流量が少なくなる冬期において大きくなる傾向を示しています。

6. 淀川の特徴

琵琶湖の役割

枚方流量に占める琵琶湖放流量の割合

